

コロナ禍でとられた障害者スポーツ振興の工夫

2020年に実施予定だったオリンピックおよびパラリンピックは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を受け、2021年に延期となりました。ちょうどこのコラムを書いている2021年8月現在、オリンピックが閉会し、パラリンピックが開会を迎えました。

著者：伊藤 綾香



2021年8月

こうした大規模なイベントを支えるのは日常的なスポーツ振興の取り組みであり、そこには大きく分けてスポーツを人々に知ってもらい、競技人口を増やしていく普及促進事業と、競技者のレベルを向上させる強化事業とがあります。日本では各地のスポーツ協会や競技団体がそれらの重要な担い手となっています。

COVID-19の拡大により、各地で大会・競技会等イベントが中止や縮小となるなど、スポーツ振興事業は大きな影響を受けました。それでも、感染症拡大下でもスポーツを広げるために、様々な団体が工夫を凝らしました。弊社が2020年度に受託した「令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」（新型コロナウイルス感染症の影響調査）¹では、日本全国の障害者スポーツ団体へのCOVID-19の影響と、コロナ禍でのイベント実施状況についてのデータをまとめています。

報告書では、実際に、障害者スポーツ競技団体、都道府県・政令指定都市障害者スポーツ協会いずれもその多くがイベントにおいて無観客・入場制限といった方法をとったことや、イベント以外の事業の多くも前年度（2019年度）と比べて規模が縮小したこ

となどが明らかにされています。

一方で、こうした中でも、ICTを活用し、試合を生配信したり、オンラインでスポーツ教室を開催したり、配信でスポーツ大会を実施するなどした団体もありました。例えば、報告書で事例が紹介されている令和2年度青森県特別支援学校オンラインスポーツ大会では、対面での競技が難しいことから、バレーボールのトスの回数を競うといった新しいルールを作るなどの工夫がとられました。また、スペシャルオリンピックス日本により、大型イベントが中止となった代わりに、参加者で走行距離をつなぎ日本一周を目指す「オンラインマラソン」が実施されました。

オンラインマラソンは早々に目標が達成されたため、目標距離を伸ばすなどして続けられました。いずれも緊急時への対応ではありますが、こうした取り組みには、障害者スポーツのあり方を広げる可能性を見出すこともできそうです。

感染症の拡大がスポーツ振興にもたらした影響は小さなものではありません。しかし、もともとパラリンピック終了後のスポンサー撤退といった課題も指摘されていました²。障害者スポーツの火を絶やさないための各地での工夫が、様々な人へ障害者ス

¹ スポーツ庁 HP にて公開。

https://www.mext.go.jp/sports/content/20210430-spt_kensport01-000014680_23_2.pdf

² NHK、令和2年2月27日17:00、Web特集「開幕まで半年“パラバブル”その先へ」

https://www3.nhk.or.jp/news/special/2020news/special/article_20200227_02.html

ポーツについて触れるきっかけを作り、こうした問題を乗り越えていくことにもつながるのか。障害者スポーツをめぐる今後の動きに注目していきたいところです。

参考文献

スポーツ庁、2021、『令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」（新型コロナウイルス感染症の影響調査）成果報告書』。